

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

心理社会的要因と発がん・生存に関する研究

研究分担者 中谷直樹 東北大学東北メディカル・メガバンク機構 講師

研究要旨 心理的特徴ががんを発症・進展させる可能性は古くから指摘されている。本研究では、①パーソナリティとがん発症リスク、②パーソナリティとがん予後リスク、③抑うつとがん発症リスク、④抑うつとがん予後リスクについて系統的レビューを実施した。論文は2012年8月までにPubMedに掲載された論文を検索した。本年度は、①②③のレビューの再確認と④についてのレビューを実施した。その結果、①②③に関して、関連なしとする研究が多かった。一方、④に関して結果は一致していなかった。心理社会的要因（特に、パーソナリティ・抑うつ）とがん発症/がん予後の関連について系統的レビューを実施した結果、概ね両者の関連はない、あるいはあったとしても小さい可能性があるという結論が得られた。一方、抑うつとがん予後について更なるエビデンスを構築することにより、両者の関連がより明確になると考える。

A. 研究目的

心理的特徴ががんを発症・進展させる可能性は古くから指摘されている。古代ギリシアのガレヌスは、『腫瘍論（De Tumoribus）』において「黒胆汁質」の女性は「多血質」の女性に比しがんに罹患しやすいと記述している。また、がんの発生や進展に関連すると考えられている心理的特徴は、(a) 情動表現の抑制及び強い情動反応の否定、(b) ストレスにうまく対処できないこと及び絶望感や無力感といったあきらかめの反応であり、タイプCパーソナリティと呼ばれている。しかし、現在までタイプCパーソナリティとがん発症や予後に関する一致した結果は得られていない。

本研究では①パーソナリティとがん発症リスク、②パーソナリティとがん予後リスク、③抑うつとがん発症リスク、④抑うつとがん予後リスクについて系統的レビューを実施した。

その後、得られたエビデンスを国立がん研究センターのホームページ上に分かりやすく紹介することを目的とした。

B. 研究方法

上記①-④に関するレビュー論文は2012年8月までにPubMedに掲載された論文のうち、前向きコホート研究デザインのみ限定する。(1)著者・発表年数、(2)対象の詳細、(3)パー

ソナリティ・抑うつ曝露指標、(4)追跡期間、(5)イベント数、(6)結果の詳細等について系統的にレビューを行った。本年度は、①②③のレビューの再確認と④についてのレビューを実施した。

本研究は系統的レビューに関する研究なので倫理的に問題になるような事項はない。

C. 研究結果

下表に①-④に関する系統的レビューの結果を示した。論文数と心理社会的要因（パーソナリティ・抑うつ）とアウトカム（がん発症・がん予後）の関連の有無に関する論文数を示した。

①パーソナリティとがん発症リスク

これまで10件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。日本のデータから、宮城県内14町村に居住する40歳から64歳の男女(29,606人)に対する7年間の追跡調査の結果、パーソナリティ指標とがん発症リスクとの関連はなかった。一方、神経症傾向とがん発症リスクに関して、先行研究（後ろ向きデザイン、前向きデザイン）の結果を因果の逆転により説明できる可能性が示された。また、最新の研究では、スウェーデン・フィンランドの双生児男女59,548人を対象とした30年間の追跡調査の結果、両者の関連が示されなかった。

② パーソナリティとがん予後リスク

これまで 10 件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。

表. 系統的レビューの結果 (単位: 件)		
論文数	関連なし	関連あり
① パーソナリティとがん発症リスク		
10	9	1
② パーソナリティとがん予後リスク		
10	6	4
③ 抑うつ (抑うつ症状、うつ病、抑うつ気分) とがん発症リスク		
15	10	5
④ 抑うつ (抑うつ症状、うつ病、抑うつ気分) とがん予後		
42	22	19 悪化、1 改善
(1) 乳がん		
13	9	3 悪化、1 改善
(2) 肺がん		
9	5	4 悪化
(3) 血液関連がん		
9	4	5 悪化
(4) Mixed がん		
11	4	7 悪化

一般地域住民を対象とした最近の大規模な研究 (日本、スウェーデン・フィンランド、デンマーク等) においても、両者の関連は示されなかった。国立がん研究センター東病院肺がん患者におけるデータを用いた研究においてもパーソナリティとがん予後の関連は示されなかった。

③ 抑うつ (抑うつ症状、うつ病、抑うつ気分) とがん発症リスク

これまで 10 件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。最近研究において、これまでの研究を統合した解析 (メタ分析) が実施され、両者には関連を認めなかった。しかし、乳がん発症リスクに絞った、長期間の追跡調査を有する研究を統合した場合、抑うつを有する者は乳がん発症リスクが高くなる結果が示された。

④ 抑うつ (抑うつ症状、うつ病、抑うつ気分) とがん予後リスク

(1) 乳がん

これまで 13 件の前向きコホート研究が行われており、多くの研究でその関連が否定されている。最近の研究では、オーストラリアの乳がん罹患者を平均 8.2 年追跡した結果、両者の関連は示されなかった。

(2) 肺がん

これまで 9 件の前向きコホート研究が行われている。結果として、一致する結果は得られていない。国立がん研究センター東病院肺がん患者におけるデータを用いた研究では、肺がん診断後の抑うつと生命予後の関連は示されず、両者の関連において、臨床症状が重大な交絡要因となっていることが示された。多くの研究において、研究対象者が少ない、交絡要因の補正が不十分などの問題がある。

(3) 血液関連がん

これまで 9 件の前向きコホート研究が行われている。がん種は白血病、骨髄移植患者など多岐にわたる。結果として、一致する結果は得られていない。多くの研究において、交絡要因の補正が十分おこなわれているが、対象者数が 200 人弱と小規模なデータでの検討にとどまっている。

(4) Mixed がん

これまで 11 件の前向きコホート研究が行われている。Mixed がんとは、複数のがん種を含んでいる。結果として、一致する結果は得られていないものの、悪化すると報告する研究数が多かった。多くの研究において、研究対象者が少ないという問題がある。さらに、がん種が複数であるので十分な交絡要因の補正が必要となるが、不十分な研究が多く問題がある。

D. 考察

本研究では、① パーソナリティとがん発症リスク、② パーソナリティとがん予後リスク、③ 抑うつとがん発症リスク、④ 抑うつとがん予後リスクについて系統的レビューを実施した。その結果、①②③に関して、関連なしとする研究が多かった。一方、④に関して結果は一致していなかった。心理社会的要因 (特に、パーソナリティ・抑うつ) とがん発症/がん予後の関連について系統的レビューを実施した結果、概ね両者の関連はない、あるいはあったとしても小さい可能性があるという結論が得られた。心理社会的要因ががん発症/がん予後に及ぼす影響はない、あるいはあったとしても小さいということが世界的知見となっている。今回系統的レビューを実施し①

－④の研究テーマ別にまとめると、

① パーソナリティとがん発症リスク
＝両者の関連なし

② パーソナリティとがん予後リスク
＝両者の関連なし

③ 抑うつとがん発症リスク
＝両者の関連なし

④ 抑うつとがん予後リスク

(1)乳がん

＝両者の関連なし

(2)肺がん

＝明確な関連が得られていない

(3)血液関連がん

＝明確な関連が得られていない

(4)Mixedがん

＝明確な関連が得られていない

となり、明らかに有意な関連がみられる結果はなかった。④(2)(3)(4)に関しては、研究結果が一致せず、明確な関連が得られていなかった。その理由として、研究規模が小さい、交絡要因が不十分、追跡期間が短い等方法的に限界を有する研究も多く存在していたことが考えられる。更なるエビデンスを構築することにより、両者の関連が明確になると考える。

E. 結論

心理社会的要因（特に、パーソナリティ・抑うつ）とがん発症/がん予後の関連について検討したが、両者の関連はない、あるいはあったとしても小さい可能性があるという結論が得られた。④(2)(3)(4)に関し研究結果が一致していない理由として、研究規模が小さい、追跡期間が短い等方法的に限界を有する研究が多く存在する点が考えられる。更なるエビデンスを構築することにより、両者の関連が明確になると考える。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Nakaya N, et al: The association between self-reported history of physical diseases and psychological distress in a community-dwelling Japanese population: the Ohsaki Cohort 2006 Study. Eur J Publ Health 2006
2. Nakaya N, et al: All-cause mortality

among men whose cohabiting partner has been diagnosed with cancer.

Epidemiology, 24(1): 96-9, 2013

3. 中谷直樹：心理社会的要因とがん発症・生存に関する最新データ. 緩和ケア 23: 217, 2013

2. 学会発表

1. 中谷直樹：心理社会的因子とがん発症・がん予後に関する疫学研究及び今後の展開. 日本サイコオンコロジー学会総会, 大阪, 9月, 2013
2. 中谷直樹：がんに影響を及ぼす心理社会的要因の検討. 日本疫学会総会, 大阪, 2013

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他

参考文献（レビュー）リスト

<パーソナリティとがん発症リスク>

1. Persky VW, et al. Psychosom Med. 1987 Sep-Oct; 49(5): 435-49.
2. Grossarth-Maticek R, et al. J Psychosom Res. 1985; 29(2): 167-76.
3. Hahn RC, et al. Cancer. 1988 Feb 15; 61(4): 845-8.
4. Bleiker EM, et al. J Natl Cancer Inst. 2008 Feb 6; 100(3): 213-8.
5. Everson SA, et al. Psychosom Med. 1996 Mar-Apr; 58(2): 113-21.
6. Schapiro IR, et al. Am J Epidemiol. 2001 Apr 15; 153(8): 757-63.
7. Lillberg K, et al. Int J Cancer. 2002 Jul 20; 100(3): 361-6.
8. Nakaya N, et al. J Natl Cancer Inst. 2003 Jun 4; 95(11): 799-805.
9. Hansen PE, et al. Cancer. 2005 Mar 1; 103(5): 1082-91.
10. Nakaya N, et al. Am J Epidemiol. 2010 Aug 15; 172(4): 377-85.

<パーソナリティとがん予後リスク>

1. Greer S, et al. Lancet 1979; i: 931-32.
2. Hislop TG, et al. J Clin Epidemiol 1987; 40: 729-35.
3. Dean C, et al. J Psychosom Res 1989; 33: 561-69.

- 4 Ratcliffe MA, et al. Psychooncology 1995; 4: 39-45.
 - 5 Nakaya N, et al. Br J Cancer 2005; 92: 2089-94.
 - 6 Nakaya N, et al. Br J Cancer 2006; 95: 146-152.
 - 7 Nakaya N, Psychooncology 2008; 17: 466-73.
 - 8 Nakaya N, Epidemiology. 2009 Nov; 20(6): 916-20.
 - 9 Nakaya N, Am J Epidemiol. 2010 Aug 15; 172(4): 377-85.
 - 10 Novotny P, et al. J Thorac Oncol. 2010 Mar; 5(3): 326-32.
- <抑うつとがん発症リスク>
- 1 Persky VW, et al. Psychosom Med. 1987 Sep-Oct; 49(5): 435-49.
 - 2 Kaplan GA, et al. Behav Med. 1988 Feb; 11(1): 1-13.
 - 3 Hahn RC, et al. Cancer. 1988 Feb 15; 61(4): 845-8.
 - 4 Zonderman AB, et al. JAMA. 1989 Sep 1; 262(9): 1191-5.
 - 5 Linkins RW, et al. Am J Epidemiol. 1990 Nov; 132(5): 962-72.
 - 6 Vogt T, et al. Am J Public Health. 1994 Feb; 84(2): 227-31.
 - 7 Knekt P, et al. Am J Epidemiol. 1996 Dec 15; 144(12): 1096-103.
 - 8 Everson SA, et al. Psychosom Med. 1996 Mar-Apr; 58(2): 113-21.
 - 9 Penninx BW, et al. J Natl Cancer Inst. 1998 Dec 16; 90(24): 1888-93.
 - 10 Gallo JJ, et al. Cancer Causes Control. 2000 Sep; 11(8): 751-8.
 - 11 Dalton SO, et al. Am J Epidemiol. 2002 Jun 15; 155(12): 1088-95.
 - 12 Nyklicek I, et al. Psychol Med. 2003 Aug; 33(6): 1111-7.
 - 13 Aro AR, et al. Psychol Med. 2005 Oct; 35(10): 1515-21.
 - 14 Gross AL, et al. Cancer Causes Control. 2010 Feb; 21(2): 191-9.
 - 15 Chen YH, et al. J Affect Disord. 2011 Jun; 131(1-3): 200-6.
- <抑うつとがん予後リスク>
- [乳がん]
- 1 Derogatis LR, et al. JAMA 1979; 242: 1504-8.
 - 2 Jamison RN, et al. J Clin Oncol 1987; 5: 768-72.
- 3 Hislop TG, et al. J Clin Epidemiol 1987; 40: 729-35.
 - 4 Gilbar O. et al. Gen Hosp Psychiat 1996; 18: 266-70.
 - 5 Watson M, et al. Lancet 1999; 354: 1331-6. (Watson M, et al. Eur J Cancer. 2005 Aug; 41(12): 1710-4.)
 - 6 Hjerl K, et al. Psychosomatics 2003; 44: 24-30.
 - 7 Goodwin JS, et al. J Am Geriatr Soc 2004; 52: 106-11.
 - 8 Osborne RH, et al. Psychooncology 2004; 13: 199-210.
 - 9 Goodwin PJ, et al. J Clin Oncol 2004; 22: 4184-92.
 - 10 Onitilo AA, et al. Gen Hosp Psychiatry. 2006 Sep-Oct; 28(5): 396-402.
 - 11 Groenvold M, et al. Breast Cancer Res Treat. 2007 Oct; 105(2): 209-19.
 - 12 Phillips KA, et al. J Clin Oncol. 2008 Oct 1; 26(28): 4666-71.
- [肺がん]
- 1 Cody M, et al. Psychooncology. 1994; 3: 141.
 - 2 Buccheri G, et al. Eur Respirat J. 1998; 11: 173-8.
 - 3 Faller H, et al. Archives of General Psychiatry. 1999; 56: 756- 762.
 - 4 Faller H, et al. Psychooncology. 2004; 13: 359-63.
 - 5 Onitilo AA, et al. Gen Hosp Psychiatry. 2006 Sep-Oct; 28(5): 396-402.
 - 6 Nakaya N, et al. Cancer Science. 2006; 97: 199-205.
 - 7 Nakaya N, et al. Psychooncology. 2008; 17: 466-73.
 - 8 Akechi T, et al. Psychooncology. 2009; 18: 23-9.
 - 9 Pirl WF, et al. J Clin Oncol. 2012 Apr 20; 30(12): 1310-5.
- [血液関連がん]
- 1 Richardson JL, et al. J Psychosom Res. 1990; 34(2): 189-201.
 - 2 Andrykowski MA, et al. Psychosom Med. 1994 Sep-Oct; 56(5): 432-9.
 - 3 Ratcliffe MA, et al. Psychooncology. 1995; 4: 39-45.
 - 4 Murphy KC, et al. Bone Marrow Transplant. 1996 Jul; 18(1): 199-201.

- 5 Broers S, et al. J Psychosom Res. 1998 Oct; 45(4): 341-51.
- 6 Loberiza FR Jr, et al. J Clin Oncol. 2002 Apr 15; 20(8): 2118-26.
- 7 Chang G, et al. Psychosomatics. 2004 Sep-Oct; 45(5): 378-85.
- 8 Prieto JM, et al. J Clin Oncol. 2005 Sep 1; 23(25): 6063-71.
- 9 Grulke N, et al. et al. Psychooncology. 2008 May; 17(5): 480-7.

[Mixed がん]

- 1 Leigh H, et al. Psychother Psychosom. 1987; 47(2): 65-73.
- 2 Ringdal GI, et al. Br J Cancer. 1996 June; 73(12): 1594-9.
- 3 Schulz R, et al. Psychol Aging. 1996 Jun; 11(2): 304-9.
- 4 Viganó A, et al. Arch Intern Med. 2000 Mar 27; 160(6): 861-8.
- 5 Stommel M, et al. Cancer. 2002 May 15; 94(10): 2719-27.
- 6 Brown KW, et al. Psychosom Med. 2003 Jul-Aug; 65(4): 636-43.
- 7 Onitilo AA, et al. Gen Hosp Psychiatry. 2006 Sep-Oct; 28(5): 396-402.
- 8 Beresford TP, et al. Psychosomatics. 2006 May-Jun; 47(3): 247-53.
- 9 Gripp S, et al. J Clin Oncol. 2007 Aug 1; 25(22): 3313-20.
- 10 Lam PT, et al. Hong Kong Med J. 2007 Dec; 13(6): 453-9.
- 11 Lloyd-Williams M, et al. J Affect Disord. 2009 Feb; 113(1-2): 127-32.

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Fujimori M, Uchitomi Y, et al	Chapter 26 Communication between cancer patients and oncologists in Japan.	Surbone A, Zwitter M, Rajer M, Stiefel R	New Challenges in Communicatio n with Cancer Patients.	Springer	New York	2013	301-316
Okamura H	Psychosocial care for patients with colorectal cancer	Khan JS	Colorectal Cancer - Surgery, Diagnostics and Treatment	InTech	Croatia		in press

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
浅井真理子	死別における意味再構築	内富庸介, 大西秀樹, 藤澤大介 (監訳)	がん患者心理 療法ハンドブ ック	医学書院	東京	2013	403-420
		竹中文良/ 内富庸介 (監訳)	がん患者・家 族のためのウ ェルネスガイ ド-がんと診 断されてもあ なたらしく生 きるために-	パレード	大阪	2013	
明智龍男	がん患者の抑うつの評価と治療		NAGOYA MEDICAL JOURNAL		名古屋	2013	51-55
明智龍男	一般身体疾患による気分障害	山口徹, 北 原光夫, 福 井次矢(編)	今日の治療指 針	医学書院	東京	2013	868
明智龍男	精神症状マネジメント 概論	日本緩和医 療薬学会 (編)	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	79
小川朝生	癌患者の心理的反 応・サイコオンコロジ ー	小川修, 岡 田裕作, 荒 井陽一, 寺 地敏郎, 松 田公志, 寛 善行, 羽瀧 友則	ベッドサイド 泌尿器科学改 定第4版	南江堂	東京	2013	617-620
小川朝生	意識障害（せん妄）	日本緩和医 療薬学会	緩和医療薬学	南江堂	東京	2013	80-81
小川朝生	がん領域における抑 うつの現状と対応	村松公美 子, 伊藤弘 人	身体疾患患者 精神的支援ス トラテジー	NOVA 出版	東京	2013	23-27

小川朝生	入院患者の不眠に注意	小川修, 谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	27-32
小川朝生	せん妄を発症する疑いがある場合	小川修, 谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	156-157
小川朝生	せん妄になってしまった場合	小川修, 谷口充孝	内科医のための不眠診療はじめの一步	羊土社	東京	2013	158-160
三木恵美, 岡村仁 (監訳)			がんと緩和ケアの作業療法	三輪書店	東京	2013	
岡村仁	精神医学概説	奈良 勲, 富樫誠二, 仙波浩幸, 山本大誠	心理・精神領域の理学療法	医歯薬出版株式会社	東京	2013	14-17
岡村仁	精神症状	島崎寛将, 倉都滋之, 山崎圭一, 江藤美和子	緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション	中山書店	東京	2013	42-47
岡村仁	生下時体重が重いと乳癌発症リスクが高いのか	日本乳癌学会	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2013年版	金原出版株式会社	東京	2013	28-29
岡村仁	夜間勤務は乳癌発症リスクを増加させるか	日本乳癌学会	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2013年版	金原出版株式会社	東京	2013	44-46
岡村仁	電磁波は乳癌発症リスクを増加させるか	日本乳癌学会	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2013年版	金原出版株式会社	東京	2013	47-49
岡村仁	乳癌発症リスクに関連する心理社会的要因はあるか	日本乳癌学会	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2013年版	金原出版株式会社	東京	2013	50-52
岡村仁	心理社会的介入は乳癌患者に有用か	日本乳癌学会	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2013年版	金原出版株式会社	東京	2013	132-134
村上好恵, 岡村仁 (訳)	遺伝性腫瘍外来における心理療法	内富庸介, 大西秀樹, 藤澤大介 (監訳)	がん患者心理療法ハンドブック	医学書院	東京	2013	329-347

大西秀樹, 他	悪性腫瘍と心の関係	宮岡等	脳と心のプライマリケア	シナジー	東京	2013	250-264
大西秀樹, 他	せん妄がおこったら	平原左斗司, 茅根義和	チャレンジ在宅がん緩和ケア	南山堂	東京	2013	119-127
宮下光令 (編集), 森田達也 (医学監修), 他	ナーシング・グラフィカ成人看護学⑦	宮下光令 (編集), 森田達也 (医学監修), 他	緩和ケア	メディカ出版	大阪	2013	
日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会, 森田達也		日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会	終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2013年版	金原出版株式会社	東京	2013	
森田達也	緩和ケア普及のための地域プロジェクト (OPTIM-study.) から得られたものをどう生かすか	(財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会	ホスピス緩和ケア白書2013	(財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団	東京	2013	28-37
木澤義之, 森田達也, 他		木澤義之, 森田達也, 他	3ステップ実践緩和ケア	青海社	東京	2013	
日本アプライド・セラピューティクス学会, 森田達也		日本アプライド・セラピューティクス学会	2ページで理解する標準薬物治療ファイル	南江堂	東京	2013	

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakaya N, Uchitomi Y, et al	All-cause mortality among men whose cohabiting partner has been diagnosed with cancer.	Epidemiology	24(1)	96-99	2013
Asai M, Shimizu K, Ogawa A, Akechi T, Uchitomi Y, et al	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	Psychooncology	22(5)	995-1001	2013
Terada S, Uchitomi Y, et al	Person-centered care and quality of life of patients with dementia in long-term care facilities.	Psychiatry Res	205(1-2)	103-108	2013
Kishimoto Y, Uchitomi Y, et al	Abuse of people with cognitive impairment by family caregivers in Japan (a cross-sectional study).	Psychiatry Res	209(3)	699-704	2013
Inagaki M, Akechi T, Uchitomi Y, et al	Associations of interleukin-6 with vegetative but not affective depressive symptoms in terminally ill cancer patients.	Support Care Cancer	21(8)	2097-2106	2013

Nagao S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Progressive supranuclear palsy presenting as primary lateral sclerosis.	J Neurol Sci	329(1-2)	70-71	2013
Oshima E, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Accelerated Tau Aggregation, Apoptosis and Neurological Dysfunction Caused by Chronic Oral Administration of Aluminum in a Mouse Model of Tauopathies.	Brain Pathol	23(6)	633-644	2013
Hayashi S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Burden of caregivers for patients with mild cognitive impairment in Japan.	Int Psychogeriatr	25(8)	1357-1363	2013
Shindo A, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Trail making test part a and brain perfusion imaging in mild Alzheimer's disease.	Dement Geriatr Cogn Dis Extra	3(1)	202-211	2013
Kondo K, <u>Ogawa A</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al	Characteristics associated with empathic behavior in Japanese oncologists.	Patient Educ Couns	93(2)	350-353	2013
Terada S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Trail Making Test B and brain perfusion imaging in mild cognitive impairment and mild Alzheimer's disease.	Psychiatry Res	213(3)	249-255	2013
Fujimori M, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Development and preliminary evaluation of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communicating bad news.	Palliative & Supportive Care	4	1-8	2013
Nagao S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Argyrophilic grain disease as a neurodegenerative substrate in late-onset schizophrenia and delusional disorders.	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci	Nov 23	Epub ahead of print	2013
Terada S, <u>Uchitomi Y</u> , et al	Depressive symptoms and regional cerebral blood flow in Alzheimer's disease.	Psychiatry Res	Nov 15	Epub	2013
<u>Akechi T</u> , et al	Assessing medical decision making capacity among cancer patients: Preliminary clinical experience of using a competency assessment instrument.	Palliat Support Care	21	1-5	2013
Fielding R, <u>Akechi T</u> , et al	Attributing Variance in Supportive Care Needs during Cancer: Culture-Service, and Individual Differences, before Clinical Factors.	PLOS ONE	8(5)	e65099	2013
Furukawa TA, <u>Akechi T</u> , et al	Cognitive-behavioral therapy modifies the naturalistic course of social anxiety disorder: Findings from an ABA design study in routine clinical practices.	Psychiatry Clin Neurosci	67(3)	139-147	2013
Kawaguchi A, <u>Akechi T</u> , et al	Group cognitive behavioral therapy for patients with generalized social anxiety disorder in Japan: outcomes at 1-year follow up and outcome predictors.	Neuropsychiatr Dis Treat	9	267-275	2013

Nakaguchi T, <u>Akechi T</u> , et al	Oncology nurses' recognition of supportive care needs and symptoms of their patients undergoing chemotherapy.	Jpn J Clin Oncol	43 (4)	369-376	2013
Nakano Y, <u>Akechi T</u> , et al	Cognitive behavior therapy for psychological distress in patients with recurrent miscarriage.	Psychol Res Behav Manag	6	37-43	2013
<u>Shimizu K</u>	Effects of Integrated Psychosocial Care for Distress in Cancer Patients.	Jpn J Clin Oncol	43 (5)	451-457	2013
Miki E, <u>Okamura H</u> , et al	Clinical usefulness of the Frontal Assessment Battery at bedside (FAB) for elderly cancer patients.	Support Care Cancer	21	857-862	2013
<u>Okamura H</u> , et al	Prevalence of dementia in Japan: a systematic review	Dement Geriatr Cogn Disord	36	111-118	2013
Yokoi T, <u>Okamura H</u>	Why do dementia patients become unable to lead a daily life with decreasing cognitive function?.	Dementia	12	551-568	2013
Endo K, <u>Okamura H</u> , et al	Dynamic exercise improves cognitive function in association with increased prefrontal oxygenation.	J Physiol Sci	63	287-298	2013
Uchimoto K, <u>Okamura H</u> , et al	Investigation of toilet activities in elderly with dementia from the viewpoint of motivation and self-awareness.	Am J Alzheimers Dis Other Dement	28	459-468	2013
Nakajima N, <u>Onishi H</u> , et al	The Evaluation of the Relationship Between the Level of Disclosure of Cancer in Terminally Ill Patients With Cancer and the Quality of Terminal Care in These Patients and Their Families Using the Support Team Assessment Schedule.	Am J Hosp Palliat Care	30	370-376	2013
Miyashita M, <u>Onishi H</u> , et al	Care Evaluation Scale-Patient version: Measuring the quality of the structure and process of palliative care from the patient' s perspective.	J Pain Symptom Manage			In press
Komura K, <u>Morita T</u> , et al	Patient-perceived usefulness and practical obstacles of patient-held records for cancer patients in Japan: OPTIM study.	Palliat Med	27 (2)	179-184	2013
Otani H, <u>Morita T</u> , et al	Usefulness of the leaflet-based intervention for family members of terminally ill cancer patients with delirium.	J Palliat Med	16 (4)	419-422	2013
Shirado A, <u>Morita T</u> , et al	Both maintaining hope and preparing for death: Effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives.	J Pain Symptom Manage	45 (5)	848-858	2013

Morita T, et al	Palliative care in Japan: a review focusing on care delivery system.	Curr Opin Support Palliat Care	7(2)	207-215	2013
Morita T, et al	Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study.	Lancet Oncol	14(7)	638-646	2013
Kunieda K, Morita T, et al	Reliability and validity of a tool to measure the severity of dysphagia: The food intake LEVEL scale.	J Pain Symptom Manage	46(2)	201-206	2013
Kizawa Y, Morita T, et al	Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer.	Am J Hosp Palliat Care	30(6)	552-555	2013
Yamaguchi T, Morita T, et al	Clinical guideline for pharmacological management of cancer pain: the Japanese society of palliative medicine recommendations	Jpn J Clin Oncol	43(9)	896-909	2013
Kanbayashi Y, Morita T, et al	Predictive factors for agitation severity of hyperactive delirium in terminally ill cancer patients in a general hospital using ordered logistic regression analysis.	J Palliat Med	16(9)	1020-1025	2013
Yoshida S, Morita T, et al	Practices and evaluations of prognostic disclosure for Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	Palliat Support Care	11(5)	383-388	2013
Imai K, Morita T, et al	Sublingually administered scopolamine for nausea in terminally ill cancer patients.	Support Care Cancer	21(10)	2777-2781	2013
Yamamoto R, Morita T, et al	The palliative care knowledge questionnaire for PEACE: Reliability and validity of an instrument to measure palliative care knowledge among physicians.	J Palliat Med	16(11)	1423-1428	2013
Amano K, Morita T, et al	Effect of nutritional support on terminally ill patients with cancer in a palliative care unit.	Am J Hosp Palliat Care	30(7)	730-733	2013
Morita T, et al	Exploring the perceived changes and the reasons why expected outcomes were not obtained in individual levels in a successful regional palliative care intervention trial: an analysis for interpretations.	Support Care Cancer	21(12)	3393-3402	2013
Igarashi A, Morita T, et al	A population-based survey on perceptions of opioid treatment and palliative care units: OPTIM Study.	Am J Hosp Palliat Care	Mar 15	[epub ahead of print]	2013

Amano K, <u>Morita T</u> , et al	The determinants of patients in a palliative care unit being discharged home in Japan.	Am J Hosp Palliat Care	Apr 2	[epub ahead of print]	2013
Otani H, <u>Morita T</u> , et al	Effect of leaflet-based intervention on family members of terminally ill patients with cancer having delirium: Historical control study.	Am J Hosp Palliat Care	Apr 23	[epub ahead of print]	2013
Muta R, <u>Morita T</u> , et al	What bereavement follow-up does family members request in Japanese palliative care units?: A qualitative study.	Am J Hosp Palliat Care	May 16	[epub ahead of print]	2013
Ando M, <u>Morita T</u> , et al	A pilot study of adaptation of the transtheoretical model to narratives of bereaved family members in the bereavement life review.	Am J Hosp Palliat Care	May 20	[epub ahead of print]	2013
Sasahara T, <u>Morita T</u> , et al	Assessment of reasons for referral and activities of hospital palliative care teams using a standard format: A multicenter 1000 case description.	J Pain Symptom Manage	Aug 21	[epub ahead of print]	2013
Imura C, <u>Morita T</u> , et al	How and why did a regional palliative care program lead to changes in region? A qualitative analysis of the Japan OPTIM Study.	J Pain Symptom Manage	Aug 24	[epub ahead of print]	2013
Ise Y, <u>Morita T</u> , et al	The activity of palliative care team pharmacists in designated cancer hospitals: A nationwide survey in Japan.	J Pain Symptom Manage	Sep 6	[epub ahead of print]	2013
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Pneumocystic pneumonia in patients treated with long-term steroid therapy for symptom palliation: A neglected infection in palliative care.	Am J Hosp Palliat Care	Sep 30	[epub ahead of print]	2013
Shimizu Y, <u>Morita T</u> , et al	Care strategy for death rattle in terminally ill cancer patients and their family members: Recommendations from a cross-sectional nationwide survey of bereaved family members' perceptions.	J Pain Symptom Manage	Oct 22	[epub ahead of print]	2013
<u>Nakaya N</u> , et al	The association between self-reported history of physical diseases and psychological distress in a community-dwelling Japanese population: the Ohsaki Cohort 2006 Study.	Eur J Publ Health			In press

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
内富庸介	がん患者の抑うつ対策 医療者が積極的に抑うつの症状を聞くことが重要	Clinic magazine	524	18-21	2013
井上真一郎, 内富庸介	せん妄の要因と予防	臨床精神医学	42(3)	289-297	2013
井上真一郎, 内富庸介	がん診断早期から行うべき緩和薬物療法の実践－精神的ストレスの観点から－	Mebio	30(7)	23-29	2013
井上真一郎, 内富庸介, 他	せん妄を見逃さないための注意点	精神科治療学	28(8)	1011-1017	2013
浅井真理子, 内富庸介, 他	配偶者をがんで亡くした遺族の対処行動パターン	心理学研究	84(5)	498-507	2013
伊藤嘉規, 明智龍男, 他	小児がん患者とその家族のこころのケア	精神科	23	288-292	2013
明智龍男	がんとこころのケア－サイコオンコロジー	精神科	23	271-275	2013
明智龍男	せん妄の向精神薬による対症療法と処方計画	精神科治療学	28	1041-1047	2013
明智龍男	緩和医療とせん妄	臨床精神医学	42	307-312	2013
明智龍男	術後せん妄	消化器外科	36	1643-1646	2013
明智龍男	抑うつとがん	レジデントノート	15	2440-2443	2013
明智龍男, 森田達也	臨床で役立つサイコオンコロジーの最新エビデンス－特集にあたって	緩和ケア	23	191	2013
明智龍男	がん患者の自殺に関する最新データ	緩和ケア	23	195	2013
明智龍男	希死念慮を有する患者のアセスメントとケア	緩和ケア	23	200	2013
清水研	ナショナルセンターとしてのあり方	総合病院精神医学	25(2)	151-155	2013
小川朝生	がん領域における精神疾患と緩和ケアチームの役割	PSYCHIATRIST	18	54-61	2013
小川朝生	一般病棟における精神的ケアの現状	看護技術	59(5)	422-426	2013
小川朝生	せん妄の予防-BPSDに対する薬物療法と非薬物療法	緩和ケア	23(3)	196-199	2013
小川朝生	高齢がん患者のこころのケア	精神科	23(3)	283-287	2013
小川朝生	がん患者の終末期のせん妄	精神科治療学	28(9)	1157-1162	2013
小川朝生	がん領域における精神心理的ケアの連携	日本社会精神医学会雑誌	22(2)	123-130	2013
岡村仁	サイコオンコロジー総論	心身医学	53	386-391	2013
岡村仁	心のケアとリハビリテーション・コミュニケーションスキル	リハビリナース	6	375-379	2013
大西秀樹, 他	ホルモン療法開始と身体症状が出現し治療中止となったstageⅣ乳がん症例に対する精神腫瘍学的介入	精神科	22	126-160	2013
大西秀樹, 他	女性がん患者とこころ－精神腫瘍医の立場から	Jp Soc Psychosom Obstet Gynecol	17	273-277	2013

大西秀樹, 他	精神疾患が関与したしびれ	レジデントノート	15	1982-16 86	2013
大西秀樹, 他	"アカシジア再考"	精神医学	55	924-925	2013
大西秀樹, 他	がん患者家族・遺族の心のケア	精神科	23	293-300	2013
大西秀樹, 他	精神腫瘍学における薬物療法	臨床雑誌「外科」	75	1426-14 30	2013
大西秀樹, 他	家族/遺族を支える	日本社会精神医学会雑誌	22	486-492	2013
森田達也	せん妄マネジメントの実際とケアの具体策 がんによる「せん妄」の原因と出現するメカニズム	がん患者ケア	6(3)	62-66	2013
森田達也	せん妄マネジメントの実際とケアの具体策 「せん妄」の薬物治療とケアの注意点	がん患者ケア	6(3)	67-72	2013
山内敏宏, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第5回代替全身投与経路2突出痛に対するオピオイド	緩和ケア	23(1)	61-63	2013
森田達也	社会の力を最大化する「顔の見える関係」緩和ケアプログラムの地域介入研究 (OPTIM-study) を終えて	週刊医学界新聞	第3019号	4	2013
厨芽衣子, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 最終回 1オピオイドスイッチング, 2オピオイド力価	緩和ケア	23(2)	161-162	2013
佐藤一樹, 森田達也, 他	地域における緩和ケア(在宅緩和ケア) 緩和ケア普及のための地域プロジェクト(1) 緩和ケア普及のための地域プロジェクトで使用した評価尺度	保健の科学	55(4)	230-235	2013
森田達也	地域における緩和ケア(在宅緩和ケア) 緩和ケア普及のための地域プロジェクト(2) 地域プロジェクト(OPTIM-study)の効果	保健の科学	55(4)	236-241	2013
森田達也, 他	「緩和ケアに関する地域連携評価尺度」の開発	Palliat Care Res	8(1)	116-126	2013
森田達也, 他	がん患者のこころのケアと地域ネットワーク—OPTIM-studyの知見から—	精神科	23(3)	307-314	2013
森田達也	苦痛緩和のための鎮静	medicina	50(11 増刊号)	527-531	2013
森田達也, 他	患者・遺族の緩和ケアの質評価・quality of life, 医師・看護師の困難感と施設要因との関連	緩和ケア	23(6)	497-501	2013
中谷直樹	心理社会的要因とがん発症・生存に関する最新データ	緩和ケア	23(3)	217	2013

